

【生命科学部】令和7年度 学部教学マネジメント報告書

3つのポリシーに基づいた学修者本位の教育の実現に向けて、学部教学マネジメントに関する以下の観点について各学部で計画・実行・検証し、次年度以降の改善に繋げることとする。

1. 学部における教学マネジメントの組織体制の変更点 ※計画書から変更があった場合

変更なし

2. 体系的かつ組織的な教育課程の編成・実施を支える各ツールの改善に向けた今年度の取り組みと取り組みを通して明らかになった課題

今年度の取り組み

① カリキュラムマップ

学部公開授業およびFDワークショップを開催し、全教員でカリキュラムマップの活用方法（履修指導等）について検討・共有を行った。

② シラバス

シラバス記載方法についてカリキュラム委員会で検討を行い、実情に即した形式への改善に着手した。

③ その他（カリキュラムツリー、ナンバリング等）

新学年歴導入に伴う様式変更への対応を継続して実施した。

課題

カリキュラムマップの周知は進んだものの、全ての教員が履修指導に完全に活用し切るまでには至っておらず、継続的な意識共有が必要である。

3. 学修成果・教育成果の把握・可視化の今年度の取り組みと取り組みを通して明らかになった課題

今年度の取り組み

学部共通基盤科目（特に「分子生物学」）を対象に、両学科の合格率や成績分布データの取得・評価を実施した。また、公開授業とワークショップを通じて、基盤科目と演習・展開科目の連携について相関分析データを用いた議論を行った。

課題

データの可視化により、基盤科目と演習科目の緊密な連携が学習効果に直結することが再認識された。今後は「分子生物学」以外の基盤科目についても同様の検証を拡大し、学部全体の教育水準の平準化を図る必要がある。

4. 授業科目の到達目標の達成状況および学生の資質・能力の修得状況の評価と明らかになった課題

評価（授業科目の到達目標の達成状況 および 学生の資質・能力の修得状況）

学部共通基盤4科目においてGPAの成績分布データを精査し、おおむね授業の到達目標が達成されていることを確認した。特別研究等の卒業研究科目については、発表会や成果物を通じて指導教員による適切な評

価が行われた。

課題

令和6年度からの継続的な課題として、2つの学科間における「資質・能力の修得」の違い（差）をできるだけ少なくすることが挙げられる。今後は令和10年度のカリキュラム改編を見据え、学科間で修得状況に偏りが出ないよう共通基盤の教育水準を担保しつつも、それぞれの学科の特色が明確に打ち出されるような教育課程の編成について検討を進めることが課題となる。

アセスメントプランの取り組み

① 結果

基盤科目と演習科目の成績に相関が見られ、段階的な学びの効果が確認できた。

② 課題

次年度に向けて「化学通論」等の基礎科目も対象に加え、初年次教育からの接続を検証する必要がある。

5. 学部における教学マネジメントの組織体制を踏まえた教員組織の編制方針の見直しの状況

評価（該当する番号にチェック）

- ①学部における教学マネジメントの検証体制を踏まえて実施できた。
- ☐ ②学部における教学マネジメントの検証体制を一部踏まえて実施できた。
- ☐ ③学部における教学マネジメントの検証体制を踏まえた実施ができなかった。
- ②もしくは③を選択した場合はその理由を自由記述欄に記入

自由記述欄

※この内容は、本学における教学マネジメントの一環として、本学HPへ掲載します。